

中期経営計画

DSA 2021 再点火反転攻勢版

~車と家をものづくりでつなぐ~



Diamond Shine Again

5 years Business Plan

2017 ~ 2021

まずは新型ウィルスで亡くなられた方々に衷心よりお悔やみを申し上げますと共に、ウィルスの影響で苦しむ方々すべての健康及び日常生活の回復をご祈念申し上げます。

さて、多くの方が亡くなられているなか、軽々に「ピンチをチャンスに」とは申しませぬが、未だ多くの人々や企業等が其之影響に苦しんでいるからこそ、私共ダイヤモンドエレクトリックホールディングスグループは公器として、此之困難の季を生き延び、存続延いては永続することで、経営理念の追求及び実現を果たし、私達が暮らす社会に対して其之責務を果たさねば為りません。

此処に、コロナ惨禍を斬り抜け、「ニューノーマル＝新常態」の時代にも「サステイナブル＝持続可能」な成長を描く新たなビジョンを掲げ、中長期経営計画【DSA2021】を再点火し、反転攻勢に連戦猛進します。

代表取締役社長 CEO 兼 グループCEO

小野有理

売上高 1,000 億円 達成

◆ 点火コイルシェア世界一

- ・お客様要求仕様対応、マルチ点火、エネルギー変換効率追求
- ・点火コイル技術の深化に依るCO₂削減プロジェクト推進

◆ 電子・車載電装事業 売上高比率5割達成

- ・住宅用蓄電システム国内シェアNo.1
- ・超小型絶縁双方向電力変換技術の進化及び省エネ電源技術追求

◆ IoTを軸とした新規事業創出

- ・当社独自のモビリティ開発及び連携推進
- ・電動化及び「ものづくり」改善の為の半導体事業構築及び連携推進

- 当社は主に『電力を取り扱う技術』である『パワーエレクトロニクス』を中心に事業を展開しております。自動車の電動化やクリーンエネルギーなど、世界的に注目が集まる市場に必要な技術を有しております。

自動車機器事業

【点火コイル】



【オンボードチャージャー】



【コンバーター】



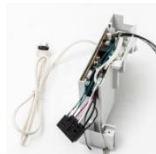
【コントローラー】



ダイヤモンド電機の祖業である特殊変圧器の点火コイルを中心に、民生品で培った電力変換技術と車載品質の信頼性を組み合わせた「ものづくり」を行っております。

電子機器事業

【インバーターユニット・コントローラー】



【トランス・リアクトル】



【パワーコンディショナー・蓄電システム】



ZREM-35ENP01 (必須)



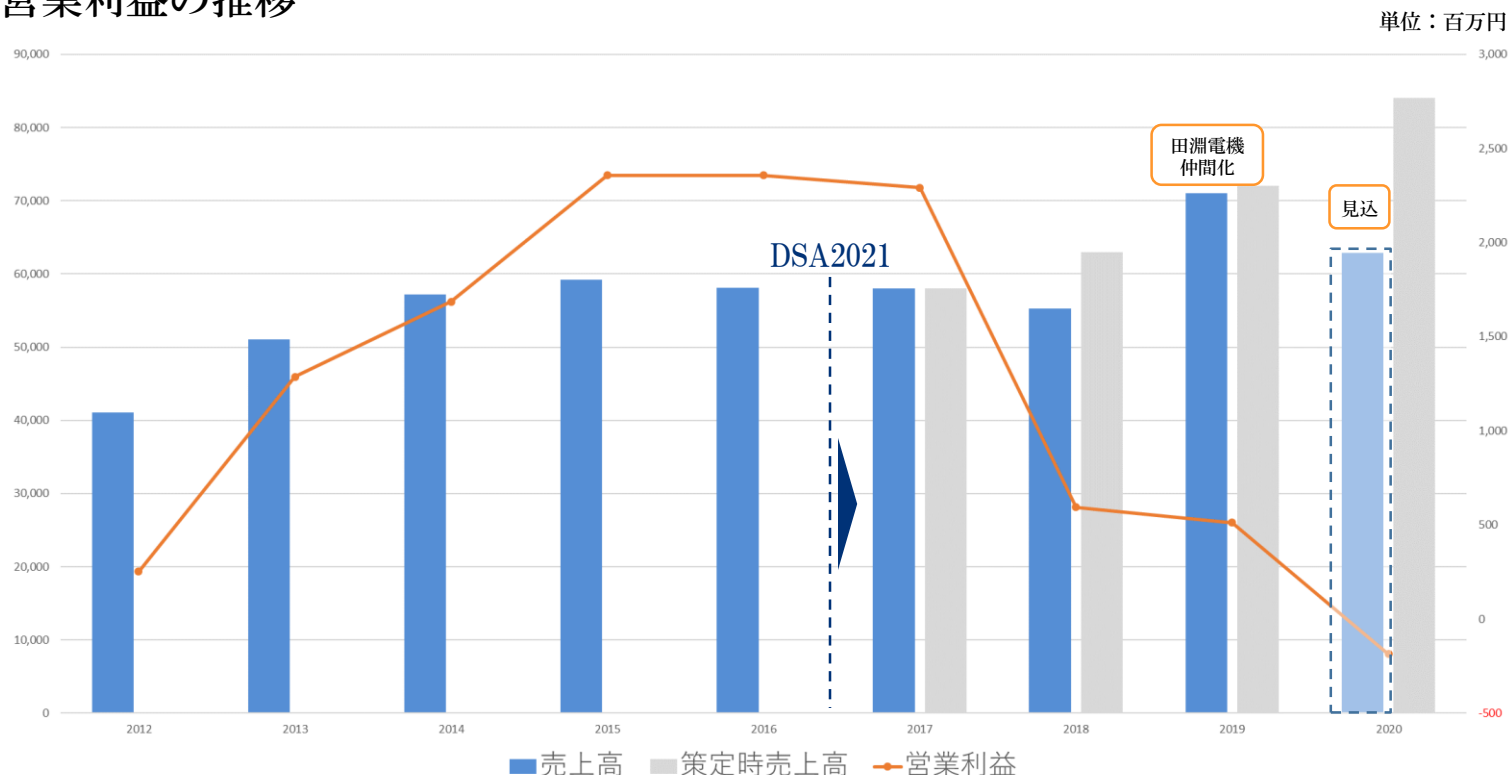
ZREM-35ENB03 (必須)



インバーターやコントローラーを中心とした制御機器設計から製造に加えて、田淵電機の祖業であるトランス、パワーコンディショナーといった、パワーエレクトロニクスを中心に多岐に渡る「ものづくり」を展開しております。

中期経営計画の振り返り

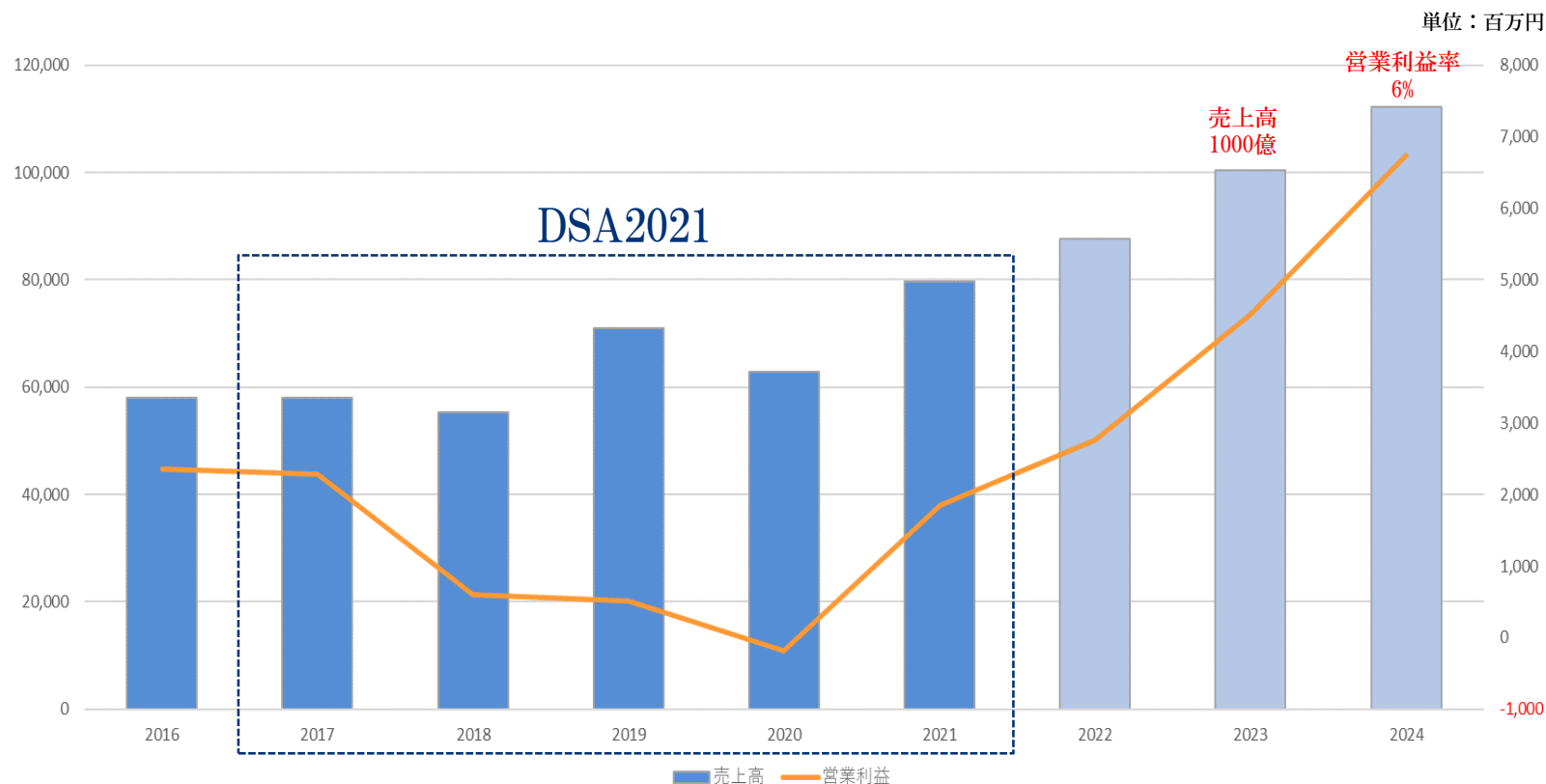
■ 売上高、営業利益の推移



- 2016年6月迄、独禁法違反での80億円以上の現金流出、ダイヤモンド電機単体として200名以上の社員が退職。
- 2018年3月期には、上記以降徹底した冗長費撲滅、独禁法違反関連の訴訟の着実な漸進により、過去最高益で再生。
主力である自動車機器事業の宿願である点火コイルシェア世界一に向けた品質保証体制増強及び追撃態勢整備。
- 2019年1月、田淵電機を仲間化、グループ全体の事業ポートフォリオ安定化が図られ、「車と家をものづくりでつなぐ」新たなビジョンの布石となる。

再点火反転攻勢計画

■ 再点火後経営指標目標



策定時：2021年度 売上高1,000億円 営業利益率6%、ROE15%以上

再点火反転攻勢版：2023年度 売上高1,000億円 2024年度 営業利益率6% ROE15%以上

再点火反転攻勢版 各事業の方向性

◆点火コイルシェア世界一

- ・お客様要求仕様対応、マルチ点火、エネルギー変換効率追求
- ・点火コイル技術の深化に依るCO₂削減プロジェクト推進

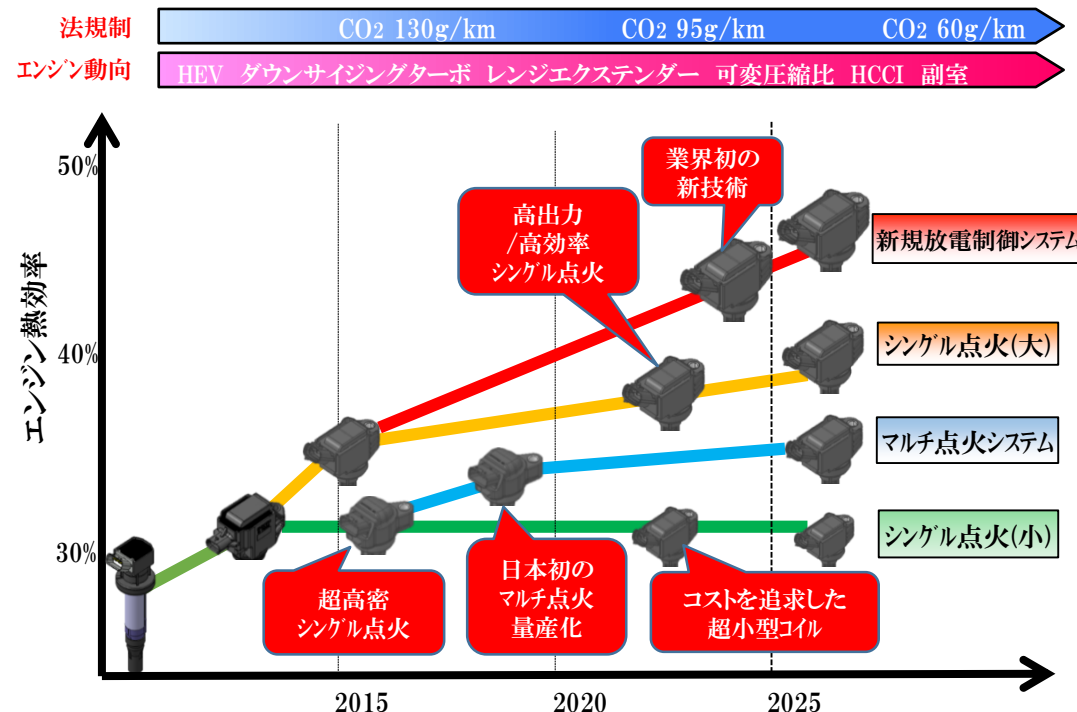
■ 点火コイルシェア世界一に向けて

点火コイルのシェアについては、各社で大きな差はなく、当社は世界シェア3位(※当社調べ)となっておりますが、シェア世界一に向け推進をして参ります。

- ・環境規制に対応する点火コイルの開発
→マルチ点火コイルの量産化(日本初)
2019年6月:ダイハツ工業株式会社様『タント』、『タフト』など採用拡大中
⇒さらなる規制対応に向け、新規放電制御コイル開発推進
- ・ルクセンブルク拠点設立効果により
欧州カーメーカー様等の新規受注増加 2022年から拡大予定
- ・北米テクニカルセンターを設立し、日米の技術連携による
北米BIG3新規ビジネス獲得 2020年より拡大中
- ・お客様のご要望に合わせた最適生産地での供給体制

■ 点火コイル技術の深化とCO₂削減への取り組み

CO₂削減対応への技術応用は自動車のみにとどまらず、その他の内・外燃機関にも活用できる点火・燃焼センシングシステムの研究を推進。エネルギーミックスを意識した様々な燃料に対応できる燃焼制御にて最適燃焼を追求し、CO₂排出削減に貢献致します。

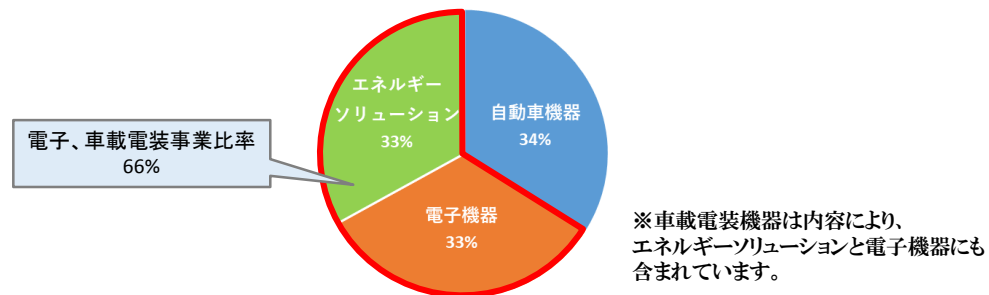


◆ 電子・車載電装事業 売上高比率5割達成

- ・住宅用蓄電システム国内シェアNo.1
- ・超小型絶縁双方向電力変換技術の進化及び省エネ電源技術追求

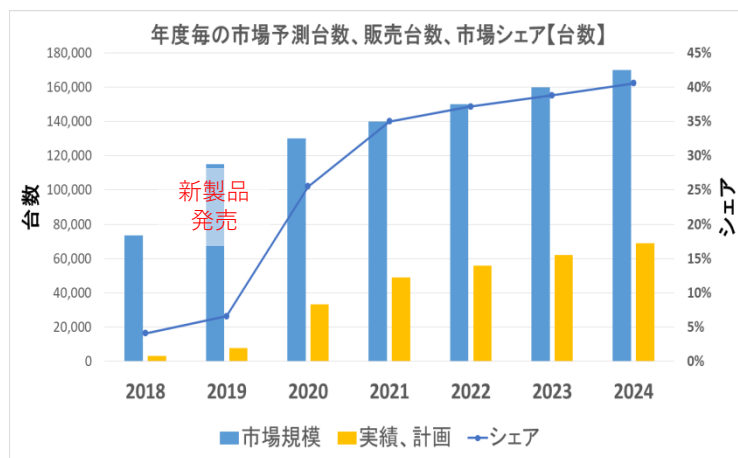
■ 売上高比率5割達成に向けて

売上高比率：2024年の姿



- ・ 2019年3月期における田淵電機の仲間化により住宅用蓄電システム国内シェアNo.1に向けた技術開発が加速。
- ・ その結果、2020年3月期には売上高比率5割の目標は既に達成し、事業の柱として、事業ポートフォリオの安定に寄与。

■ 住宅用蓄電システム国内シェアNo.1

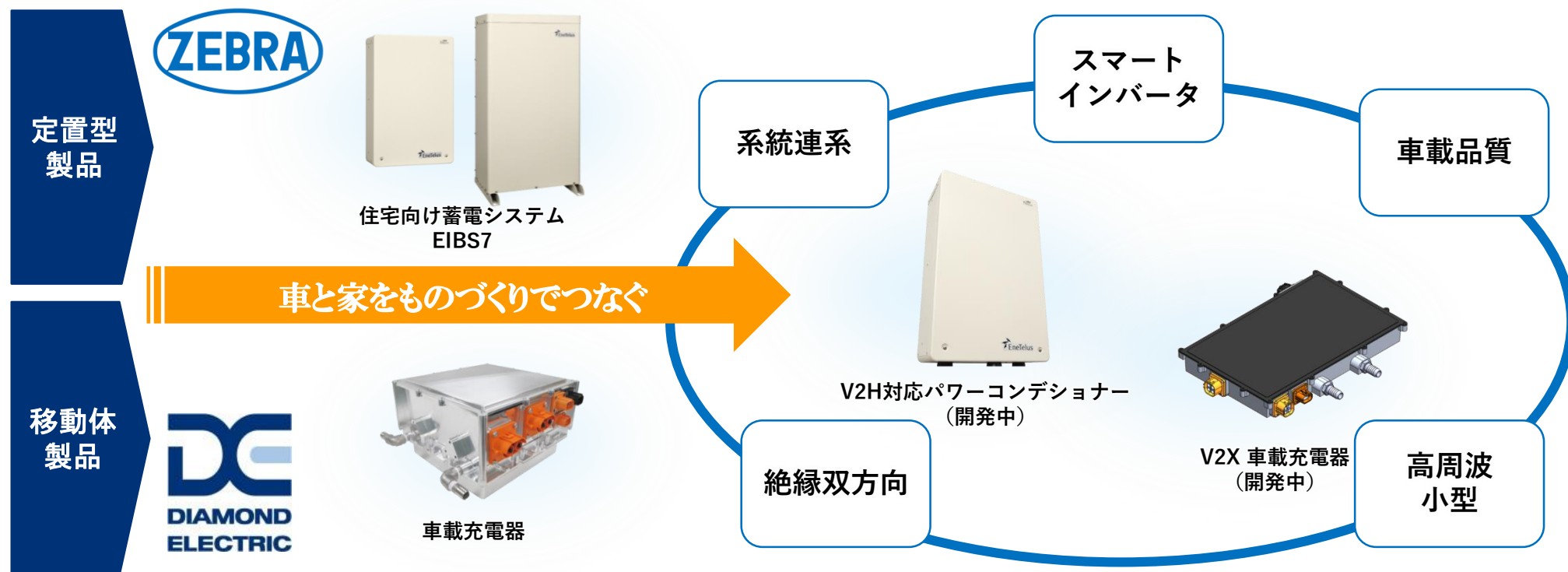


- ・ 2020年2月発売の住宅用蓄電システムEIBS7(アイビスセブン)の販売好調。(詳細は2020年度第一四半期決算短信記載)
- ・ 国内シェアNO1は2021年3月期には達成を見込む。
※シェアは当社調べ
- ・ 更なるシェア拡大に向け技術開発、営業強化に注力。

■ 超小型絶縁双方向電力変換技術の進化及び省エネ電源技術追求

EV/PHVや再生可能エネルギーのさらなる拡大には、車・家・電力系統を“ものづくりでつなげる”ことが重要となります。

田淵電機・ダイヤモンド電機がそれぞれ得意とする定置型製品・車載用製品とその先端技術を組み合わせ、V2X(Vehicle-to-everything)製品群の開発を進めております。V2X、つまり、災害時に車に家電をつなぐV2L (Vehicle-to-Load), 家の電力を丸ごとバックアップするV2H (Vehicle-to-Home), そして車の電池で系統を支えるV2G (Vehicle-to-Grid)により”つなげる”ことで、持続可能な社会の実現に貢献します。



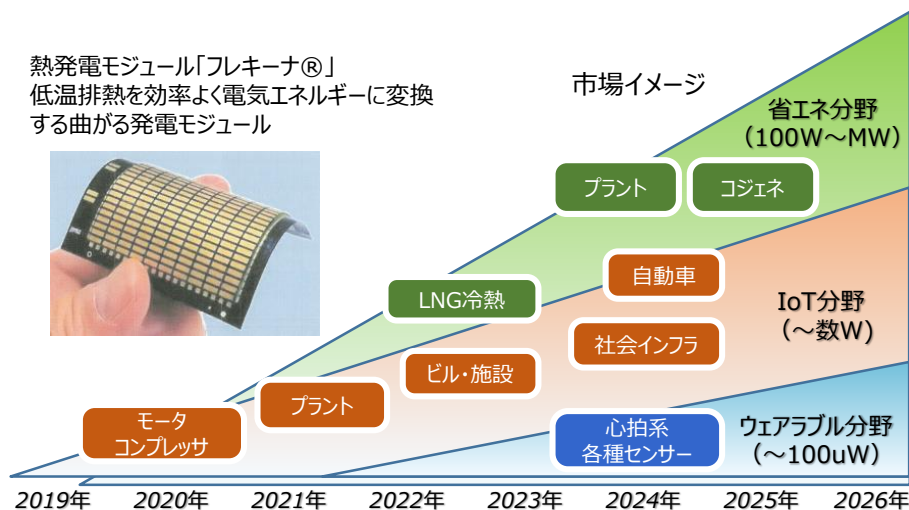
◆ IoTを軸とした新規事業創出

- ・当社独自のモビリティ開発及び連携推進 ⇒ 目下「プロジェクトA」と呼ばれる社長直下プロジェクトで極秘遂行中
- ・電動化及び「ものづくり」改善の為の半導体事業構築及び連携推進

■ IoTへの取り組み 「IoT向け熱発電システム共同開発」

- ・熱発電技術をコアとするベンチャー企業「Eサーモジェンテック社」と熱発電システムを共同開発中。
- ・地球上には、300℃以下の低温排熱が莫大に存在し、そのほとんどがエネルギーのロスとして排出されている。
- ・低温排熱を利用した熱発電(エナジーハーベスティング)デバイスを使用した、「エネルギーハーベスト型電源」の開発を通じ、IoTデバイスの発展と省電力な電力インフラの構築に貢献する。

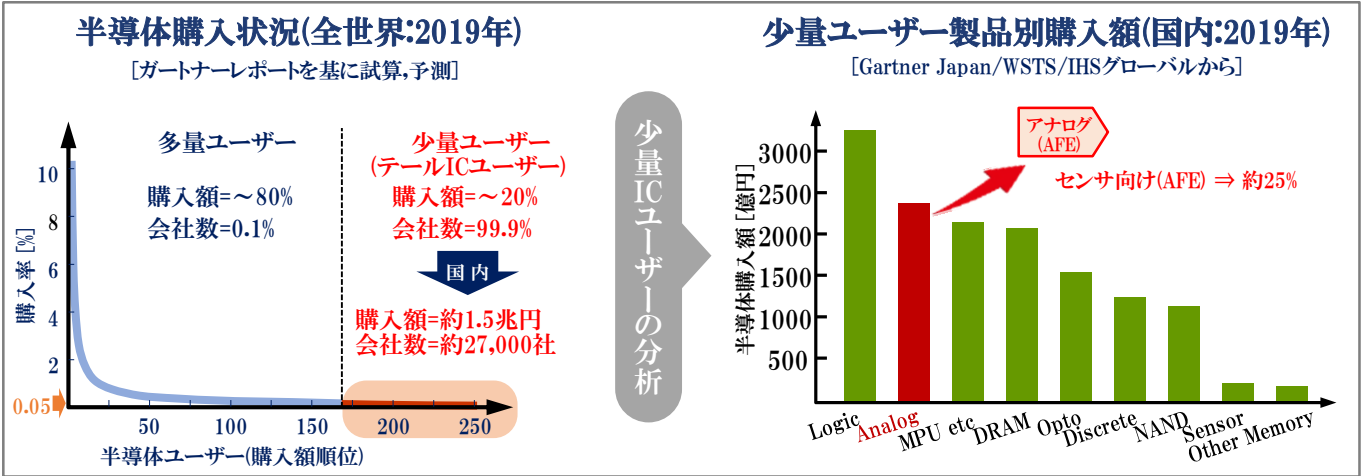
■ IoT向け自立電源開発実績



- ・設備監視IoT向け自立電源
⇒ 2機種 試作開発完了。
⇒ 2020年度4Q 実用化見込み。
- ・モーター動力向け自立電源
⇒ 試作開発中。
⇒ 2020年度3Q 実証実験開始、2021年度2Q 実用化見込み。
- ・予兆診断IoT用 自立電源
⇒ フラット一体型(自立電源+振動センサー)デモ機製作中。
⇒ 製造設備が発する廃熱を利用し、電源レスで振動モニタリング。

■ 少量半導体デバイス供給プラットフォームの構築

現状の多量製造モデルに立脚した半導体デバイス供給フレームワーク、及び、一品一葉スタイルの半導体回路設計では、今後のIoT時代に必要となる、更なる少量多品種の半導体デバイス供給(特にAFEデバイスの供給)には対応できないため、回路設計、製造技術、製造品質を少量生産向けにデザインし、三位一体の開発でプラットフォームを構築する。

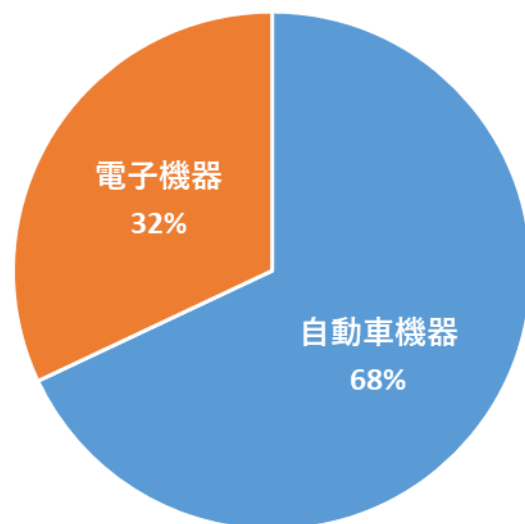


少量ICユーザーの概況

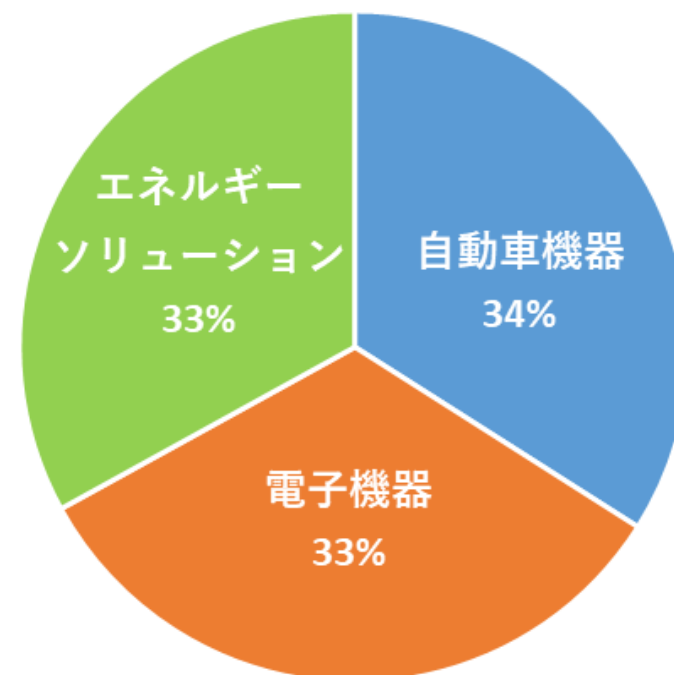
- ✓ 必要生産数(累計)
=> 半導体工場の製造管理レベルに対し小
- ✓ 要求性能見合いでのチップサイズ
=> 無理なチップサイズ縮小化不要
- ✓ 要求性能見合いでの必要最小デザインルール
=> 過剰な縮小化は不要
- ✓ 回路設計データ管理
=> 設計データが最適化されていない

少量ICユーザー(テールICユーザー)向け
「少量半導体デバイス供給プラットフォーム」
の構築による事業展開を検討中

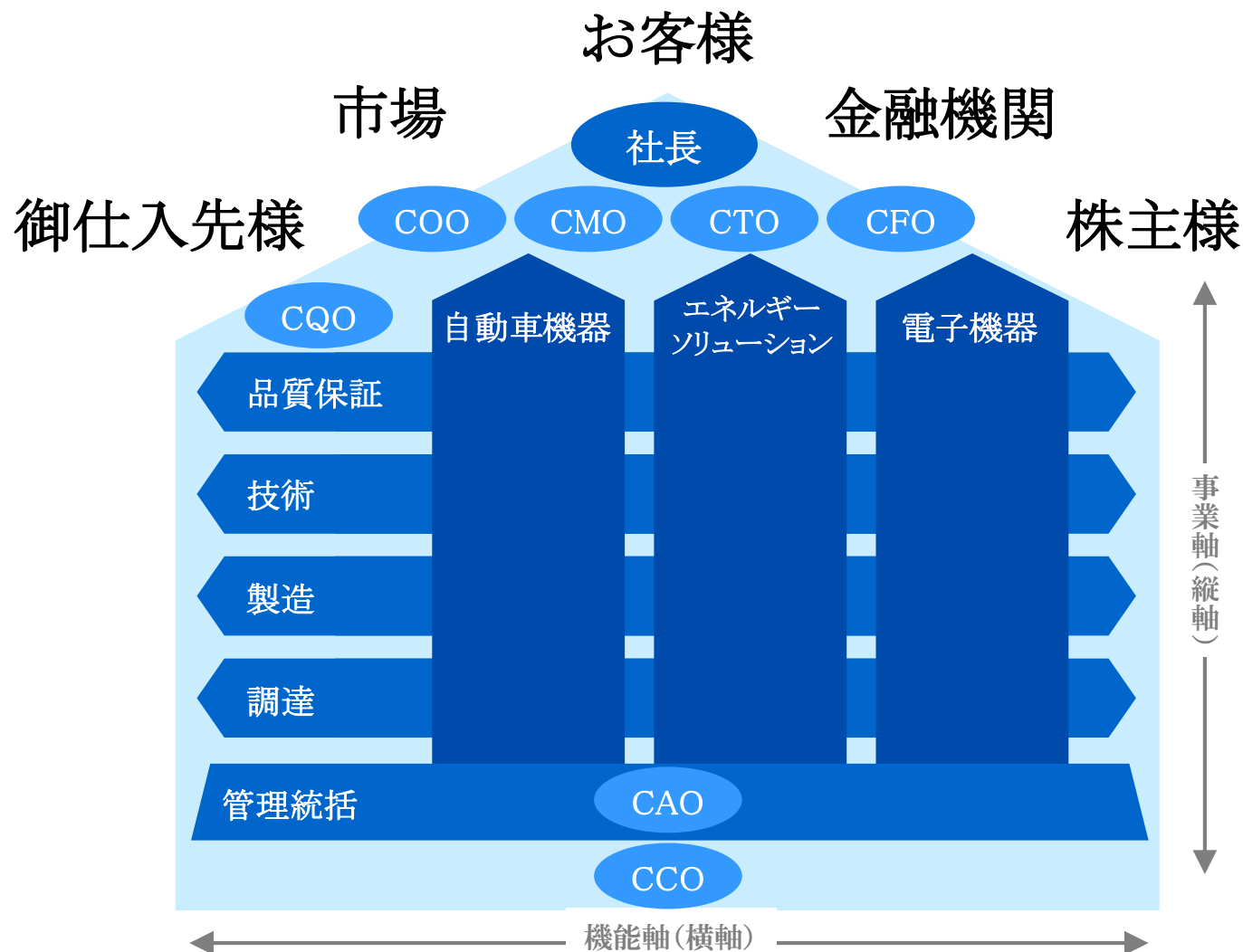
策定時ポートフォリオ
(2017年度)



再点火反転攻勢版ポートフォリオ



2019年度には田淵電機の仲間化によりDSA2021三大目標の一つ「電子・車載事業 売上高比率5割」は達成。本年、コロナ禍にあり経営環境が不透明な中、安定成長を果たす為「自動車機器」「電子機器」「エネルギーソリューション」の3事業にポートフォリオの再構成を行い、事業の安定化を目指す。



ダイヤモンドエレクトリックホールディングス、ダイヤモンド電機、田淵電機、新潟ダイヤモンド電子、田淵電子工業、そしてダイヤモンド電機アメリカ以下海外グループ会社含め、それらの全ての枠組みを超えた「One Team」で、「車と家をものづくりでつなぐ」

今夏、無念にも希望退職を募ることと相成りました。スポーツの試合等でも有るように「しんどい時には弱いところがある」、既報の通りダイヤモンド電機電子機器事業及び鳥取工場電子機器製造に於ける競争力強化のスピードが、グループの他の事業、そして世の中の変化についてゆくこと能わずでありました。

但し、今回の希望退職に応募してくれた働く仲間達もまた、紛うことなく確かな理念の理解者であり、素晴らしい働き手です。因習の中に取り残されたことに困って我が社での方途を失ってしまった仲間達の事を想うと胸が痛みます。無論、彼等彼女等は新天地でも其之実力を大いに発揮することでしょう。それでも、コロナ惨禍の環境に於いては再就職が儘為らぬことも有るやもしれません。必ず全力で、挙社体制で、再就職を支援します。決断した働く仲間達の転身もまたニューノーマルの時代の活力になると信じて疑わないからです。外部企業提供サービス支援を利用するのは通常ですが、我が社独自の取組を疎かにしません。既に多くの企業訪問を実施しています。銀行や商工会議所等、様々な機関にも協力を仰ぎ支援を取り付けています。個別に社長推薦文を添付させて頂きたい。公器としての責務を必ずや果たします。

今後も我がグループは、公器として現事業の改善を「お客様要求品質第一に徹する」を筆頭とした三大方針に則り、更に推進すると共に、感染拡大により生じる様々な社会課題の解決に資する取組みを鋭意進めて参ります。重ねて、私達人類が新型コロナウイルスに打ち克ち、人々がふたたびすこやかに暮らせるよう、心から願ってやみません。

代表取締役社長 CEO 兼 グループCEO

小野有理

2016年

- 6月25日 読売新聞「取締役の人事案 株主総会で否決」
- 6月25日 朝日新聞「株主動議で役員総入れ替え」
- 6月27日 日刊工業新聞「取締役5人全員が退任」
- 6月28日 日本経済新聞「オーナー色強まる」
- 6月29日 日本経済新聞「オーナー家から打診」
- 10月1日 日本経済新聞「委任型執行役員新たに制度導入」
- 10月21日 日刊工業新聞 社長インタビュー「点火コイル5年後『世界一』」
- 10月25日 日刊工業新聞「パワコンを受託生産」

2017年

- 3月3日 日刊工業新聞「インドネシア再照準」
- 3月7日 日刊工業新聞 社長インタビュー「点火コイル 技術開発加速」
- 3月10日 日刊工業新聞 社長インタビュー「徹底する意識」
- 4月12日 日刊工業新聞「本社に機能集約」
- 4月19日 中国新聞「知事往来」
- 4月19日 日本海新聞「知事日誌」
- 6月9日 日本経済新聞「株主総会が本格化」
- 9月1日 日本海新聞「面談と配慮で『一緒に働く』」
- 9月14日 日刊工業新聞「新型点火コイル増産」
- 10月7日 日刊 建設工業新聞「新潟ダイヤモンド電子のみらい応援私募債受託」

2018年

- 1月29日 日刊工業新聞「名刺サイズで高効率 EV用電力変換器」
- 5月15日 国際自動車ニュース「独パワーエレクトロニクス展示会に出展」
- 5月16日 日刊自動車新聞「ルクセンブルクに販売拠点を開設」
- 5月16日 日刊工業車新聞「ルクセンブルク拠点7月に新設」
- 5月29日 日刊自動車新聞 社長インタビュー「ゲームチェンジ2018」
- 6月6日 ふれあい新聞「溢れる意欲は健康な身体から」
- 7月25日 日刊自動車新聞「人とくるまのテクノロジー展」
- 10月14日 山陽新聞「作業支援の車寄贈で県感謝状」
- 10月16日 中国新聞「市長往来」
- 12月28日 大阪日日新聞 社長インタビュー「ものづくり企業を再建」

経営刷新3ヵ月
原点に返り再建

点火コイル5年後「世界一」

小野 有理 社長

「点火コイル5年後『世界一』」という目標を掲げ、技術開発に力を入れている。点火コイルは、自動車エンジンに不可欠な部品で、従来の点火コイルは、点火電圧が低く、点火タイミングが遅いという課題があった。小野有理社長は、この課題を克服するため、5年後に「世界一」の点火コイルを開発する目標を掲げた。現在は、技術開発に力を入れている。

点火コイル 技術開発加速

小野 有理 社長

「点火コイル5年後『世界一』」という目標を掲げ、技術開発に力を入れている。点火コイルは、自動車エンジンに不可欠な部品で、従来の点火コイルは、点火電圧が低く、点火タイミングが遅いという課題があった。小野有理社長は、この課題を克服するため、5年後に「世界一」の点火コイルを開発する目標を掲げた。現在は、技術開発に力を入れている。

ダイヤモンド電機 新工場

インドネシア再照準
点火コイル年産増産万本

ダイヤモンド電機は、インドネシアに新工場を建設し、点火コイルの年産増産を計画している。新工場は、インドネシアの首都ジャカルタに建設され、2018年に稼働開始予定。新工場では、点火コイルの年産増産を計画している。

名刺サイズで高効率
EV用電力変換器

ダイヤモンド電機は、名刺サイズで高効率のEV用電力変換器を開発している。この変換器は、従来の変換器に比べて、体積が小さく、効率が高いという特徴がある。現在は、技術開発に力を入れている。

ゲームチェンジ2018
点火コイルで燃費改善に貢献

小野 有理 社長

「ゲームチェンジ2018」という目標を掲げ、燃費改善に貢献している。点火コイルは、自動車エンジンに不可欠な部品で、従来の点火コイルは、点火電圧が低く、点火タイミングが遅いという課題があった。小野有理社長は、この課題を克服するため、5年後に「世界一」の点火コイルを開発する目標を掲げた。現在は、技術開発に力を入れている。

新型点火コイル増産
米・タイでライン拡充

ダイヤモンド電機は、新型点火コイルの増産を計画している。米・タイでライン拡充を行い、生産能力を向上させる。現在は、技術開発に力を入れている。

ものづくり企業を再建

小野 有理 社長

「ものづくり企業を再建」という目標を掲げ、技術開発に力を入れている。点火コイルは、自動車エンジンに不可欠な部品で、従来の点火コイルは、点火電圧が低く、点火タイミングが遅いという課題があった。小野有理社長は、この課題を克服するため、5年後に「世界一」の点火コイルを開発する目標を掲げた。現在は、技術開発に力を入れている。

ルクセンブルクに
販売拠点を開設

ダイヤモンド電機は、ルクセンブルクに販売拠点を開設している。この拠点は、ヨーロッパ市場への展開を促進するためのものである。現在は、技術開発に力を入れている。

ナビゲーター
小野さん

小野 有理 社長

「ナビゲーター」という目標を掲げ、技術開発に力を入れている。点火コイルは、自動車エンジンに不可欠な部品で、従来の点火コイルは、点火電圧が低く、点火タイミングが遅いという課題があった。小野有理社長は、この課題を克服するため、5年後に「世界一」の点火コイルを開発する目標を掲げた。現在は、技術開発に力を入れている。

3月15日
4月4日
5月16日
6月13日
6月13日
6月14日
6月17日
6月17日

6月18日
6月20日
7月11日
8月号
8月号

7月26日
7月30日
7月31日
8月19日
8月20日
9月12日
9月20日
9月26日
11月7日
12月19日

越後ジャーナル「コロナのパートナー企業として成長」
 日刊工業新聞「インドネシアに新工場」
 日刊工業新聞「車充電用コンデンサー 容量7%まで低減」
 日刊工業新聞「V2G用変換器 文庫本サイズに」
 日刊自動車新聞「タントに採用 マルチ点火コイル開発」
 日刊自動車新聞「電動化対応を強化」
 日刊工業新聞「マルチ点火コイル量産 1000分の1秒で複数回放電」
 日経XTECH
 「電解コンデンサーを全く使わない電源、EV充電器やLED照明を長寿命に」
 日刊自動車新聞 社長インタビュー「変化への挑戦」
 電気新聞「蓄電池群を一括制御」
 電子デバイス産業新聞「アルミ電解レス技術 ボード製品を発売」
 ダイヤモンド・サイ「経営者の手腕が期待できる株」
 日経エレクトロニクス
 「電解コンを全く使わない電源、EV充電器やLED照明を長寿命に」
 日経産業新聞 社長インタビュー「トップの横顔」
 越後ジャーナル「ダンディ村との交流に役立てて」
 三條新聞「ダンディ村との縁は途切れても 姉妹都市交流に20万円」
 電波新聞 社長インタビュー「21年度1000億円(売上げ)目指す ㊤」
 電波新聞 社長インタビュー「21年度1000億円(売上げ)目指す ㊦」
 日刊自動車新聞「発進DNGA」
 電波新聞 社長インタビュー「新社長紹介」
 電波新聞「田淵電機が住宅用蓄電ハイブリッドシステム」
 電波新聞「ハイテクびとInterview」
 電子デバイス産業新聞「熱電デバイスノベンチャーに出資」



2020年

- 1月24日 ラジオNIKKEI「この企業に注目！相場の福の神」
- 1月25日 大阪日日新聞「潮騒」
- 2月1日 日本海新聞「顔『巣立ちの場所』に期待」
- 2月13日 大阪日日新聞 社長インタビュー「Voice 第22回」
- 3月24日 日刊自動車新聞 社長インタビュー「ピットイン」
- 4月3日 日刊工業新聞「インドネシア工場増強」
- 4月7日 日刊工業新聞「円筒配管から排熱回収」
- 4月22日 日刊自動車新聞 社長インタビュー「勝機到来」
- 4月24日 日刊工業新聞 社長インタビュー「『車と家』領域で再成長」
- 7月2日 日本海新聞 社長インタビュー「ダイヤモンド電機 小野社長に聞く」
- 7月18日 日本海新聞 社長インタビュー「再就職対策 認識を共有」
- 7月18日 日本海新聞「知事日誌」
- 7月24日 日刊工業新聞 社長インタビュー「生産移管 鳥取の電子機器、収益改善」
- 8月4日 日刊工業新聞 社長インタビュー「海外にも活路」
- 8月20日 日刊自動車新聞 社長インタビュー「サプライヤー 新常態への挑戦」

勝機到来

ダイヤモンドエレクトリック
小野 有理社長

点火コイルの世界シェア獲得続ける
車と家ものづくりでつなぐ

日刊自動車新聞が記事利用を許諾しています。
掲載日 2020年4月22日 日刊自動車新聞 3面
©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。

円筒配管から排熱回収
ダイヤモンドエレクトリック

熱発電システム製品化
IoTセンサー電源など開拓

ダイヤモンドエレクトリックは、円筒配管から排熱回収する「熱発電システム」を開発し、製品化を進めています。このシステムは、IoTセンサーの電源としても活用でき、様々な分野での応用が期待されています。

ピットイン

ウイリスの感動大で全国の小中学校の休校が決定して、子供は家で過ごす時間が増えています。子供は家で過ごす時間が増える一方で、親は仕事で忙しいという状況です。子供は家で過ごす時間が増える一方で、親は仕事で忙しいという状況です。

お顔

「巣立ちの場所」に期待

小野 有理社長

ダイヤモンドエレクトリックは、社員が巣立ちの場所を見つけることを目指しています。社員は、会社で働くだけでなく、社会で活躍する機会を得ることができます。

ダイヤモンドエレクトリック

インドネシア工場増強

点火コイル 年産2倍超 350万本

ダイヤモンドエレクトリックは、インドネシア工場の増強を進めています。点火コイルの年産生産量は2倍を超え、350万本に達しました。

新常態への挑戦

電子機器事業の再編へ

小野 有理社長

ダイヤモンドエレクトリックは、電子機器事業の再編を進めています。新常態への挑戦を続けています。

「車と家」領域で再成長

ダイヤモンドエレクトリック

小野 有理社長

ダイヤモンドエレクトリックは、「車と家」領域で再成長を目指しています。記者の目を通して、その取り組みを詳しく紹介します。

Voice

「人々の再生物語」
経営コンサルタントから転身

小野 有理社長

ダイヤモンドエレクトリックは、経営コンサルタントから転身した人々の再生物語を伝えています。